

第2期 事業報告書

I. 事業の概況

2005年9月に有限責任中間法人日本バレーボールリーグ機構として独立し、2期目を迎えた今期は、V1リーグ所属の男女17チームの加入が実現し、名実ともに日本のバレーボール競技のトップリーグとしての体裁が整いました。これに伴い従来のVリーグをV・プレミアリーグ、V1リーグをV・チャレンジリーグと愛称をつけることにいたしました。また、大会回数もシーズン呼称に変更いたしました。

(1) V・プレミアリーグ

こうして迎えた2006/07 V・プレミアリーグ男女大会は、2006年11月に日本で開催された「2006バレーボール世界選手権（世界バレー）」および12月にカタール・ドーハで開催された「第15回アジア競技大会（2006アジア大会）」の関係から、開幕が新年（平成19年）の1月6日となり、決勝戦の4月15日までの、3ヶ月半にかけて挙行することになりました。年明けの開幕は、第6回Vリーグ男子大会以来のことであり、大会が4月まで続くのは、初めてのことであります。

今大会は、1967年（昭和42年）に始まった第1回日本リーグから数えて通算40回目の節目の年に当ることから、40回記念大会と位置づけて、いろいろな事業や企画を実施するとともに、法人設立時に掲げた5つのキーワード、「世界に挑戦」「ファン重視」「地域に密着」「常に発展」「成果の拡大」の実現のための施策にも力を入れました。

これらの主なものは、次のとおりです。

1. 40回大会記念事業

(1) 記念大会の各種の告知活動・大会キャッチコピーの公募、シンボルマークの制定、ユニフォームへの貼付、ピンバッジ製作等

(2) Vリーグ特別表彰制度の創設と表彰の実施

2. ファイナルラウンドの競技方式等の見直し

(1) レギュラーラウンド1位チームへ賞金と副賞の授与

(2) 3位決定戦、決勝戦の男女大会を同一会場で開催

(3) 個人賞賞金の復活

3. ファイナルラウンドイベントの実施

(1) 試合、40年特別表彰、ブース・展示、パフォーマンス等を総合的にプロデュース

(2) 全チーム（チャレンジマッチ出場チームを除く）の全選手の参加の実現

4. 骨髄バンク支援活動の開始

(1) 大会会場における告知活動・小冊子の配布とスーパーバンドによるVリーグテーマソングの作成等

(2) ファイナルラウンドイベントでの募金活動とチャリティーオークションの実施

5. TV放送の質・量の充実

(1) 決勝戦をNHKが地上波で時差放送（シーズン中のNHK-BSでの放送も従来どおり）

(2) CS放送（CSフジ739、GAORA）の定着と「Vの女神たち」（フジ）放送

(3) 地方局による放送の増加

6. ホームページ等によるファンサービスの充実と大会の盛り上げ

(1) ホームページのリニューアルによる情報の質・量・迅速性の向上

(2) メールマガジンの定期発行と購読者の増加（現在 9,000 名）

7. ホームゲームの充実

(1) イベントライブラリー（イベント開催ノウハウ集）の制作

(2) 各チームでの取り組みの充実

これらの取り組みの結果、大会は大いに盛り上がり、観客動員は、男女合計で、409,678 人、女子は、238,278 人を達成しました。男女合計 40 万人の大台達成は 2 年連続のことであり、女子は過去最多、また 20 万人超は、3 年連続のことであります。

(2) V・チャレンジリーグ

Vリーグ機構加盟後最初のシーズンとなったチャレンジリーグ（旧名称V1リーグ）は、男子 9 チームにて 1 月 13 日～3 月 25 日、女子は 8 チームにて 1 月 20 日～3 月 11 日、合計 256 試合を行ない、総数 40,200 人の観客を集めて（10,100 人増）、昨年よりも充実した大会となりました。

また、大会の主管は、従来どおり実業団連盟で行なっていただきました。

プレミアリーグとも企画・情報を共有しながら行なった主な施策は次のとおりです。

1. 大会告知と集客対策

(1) オリジナルポスターを 3,500 枚製作し、全 38 会場への配布と官公庁施設等への掲示

(2) 公式ホームページにチーム情報と試合予告、試合結果をプレミアリーグと同じ情報密度で掲載

2. Vリーグ機構共通企画への参画

(1) ユニフォームへの 40 回大会記念ワッペン貼付、ピンバッジ配布等の実施

(2) 骨髄バンク支援活動として、大会会場でリーフレットの配布

3. ファンサービスと地域密着への取り組み

(1) チアスティックの配布（40,000 セット）

(2) キッズエスコートやサイン会等を積極的に実施

(3) 地方開催では、地元紙、地元TV局が取り上げ、大会予告や結果記事が大幅増加

4. 表彰制度の見直しと充実

(1) 被表彰チームおよび個人への賞金の授与

(2) 表彰式パーティーの開催

(3) バレーボール教室の開催等

このほかに、Vリーグ機構としては年間を通して、バレーボール教室の実施（チームによるバレーボール教室および小学生連盟の行なう「Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室」）や、2006 年度から始めた「ジュニア育成支援活動」など、地域に密着した社会貢献型の活動にも引き続き力を入れています。

(4) 国際交流

さらに、2006 年 4 月に始めた韓国排球聯盟（KOVVO）との、「日韓 V.LEAGUE TOP MATCH」も、2 年目を迎え、4 月 21、22 日に韓国・ソウルでの男子大会、4 月 28、29 日大阪での女子大会を成功裡に終えることが出来ました。

また、トップリーグの国際競技力強化、アジア地域におけるスポーツ文化交流の面で重要な大会であることから、昨年よりVリーグ機構の負担で再開しましたアジアクラブ選手権大会への派遣も、今

年度はレギュラーラウンドの 1 位チームの副賞の形で行い、男子はサントリーサンバーズがバーレーンへ、女子は久光製薬スプリングスがベトナムへ遠征しました。

このような活動の結果を経営数値面でみますと、当期の事業収益は総額 494 百万円、費用総額は 478 百万円、経常利益 16 百万円（対前期比 8 百万円増）となり、当期利益 9 百万円（対前期比 5 百万円増）を計上することができました。

今後の見通しにつきましては、当機構主催の各種大会の収益力の向上等、経営面での改善に努め、活動の指針としての 5 つのキーワードを基本に、今年度から発足させた中期改革プロジェクトの活動などを通して経営基盤の一層の整備とより活性化した組織運営体制の確立に向けて、関係者各位のご協力を得て鋭意推進中であります。

Ⅱ. 法人の概況

(1) 事業目的

当法人は、当法人が運営する Vリーグに所属するバレーボールチームを有する社員のため、試合の企画、諸規定の整備、広報活動、知的財産権の管理、その他 Vリーグに関わる諸問題に対処することにより 社員の発展に寄与し、もって社員に共通する利益を図るとともに 財団法人日本バレーボール協会の傘下団体として、世界のトップリーグを目指し日本のバレーボール水準の向上及びバレーボールの普及を図ることにより、豊かなスポーツ文化の振興並びに国民の心身の健全な発達に貢献できることを目的とします。

バレーボールを通じ、新たなスポーツ文化価値を広く社会にアピールし、地域社会の活性化や次世代を担う青少年の育成など、わが国競技スポーツのトップリーグのスポーツ文化の創造の先駆的役割を果たすことも当法人の目的としています。

(2) 社員と基金の状況 (平成 19 年 6 月 30 日現在)

社員の名称	基金の 口数	基金の額 (円)
財団法人日本バレーボール協会	12	6,000,000
株式会社ウオーク	1	500,000
サントリー株式会社	1	500,000
株式会社武富士	1	500,000
株式会社デンソー	1	500,000
東北パイオニア株式会社	1	500,000
東レ株式会社	2	1,000,000
豊田合成株式会社	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	2	1,000,000
日本電気株式会社	2	1,000,000
久光製薬株式会社	1	500,000
株式会社日立製作所	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	1	500,000
松下電器産業株式会社	1	500,000
* 医療法人社団愛友会上尾中央病院	1	500,000
* 株式会社大野石油店	1	500,000
* 近畿クラブ	1	500,000
* 株式会社栗山米菓	1	500,000
* 警視庁特殊車両隊	1	500,000
* 社会福祉法人健祥会	1	500,000
* 三洋電機株式会社	1	500,000
* 株式会社ジェイテクト	1	500,000
* 医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	1	500,000
* 大同特殊鋼株式会社	1	500,000
* NPO法人つくばユナイテッドVOLLEYBALL	1	500,000
* 医療法人社団天宣会	1	500,000
* 東京フットボールクラブ株式会社	1	500,000
* トヨタ自動車株式会社	1	500,000
* トヨタ車体株式会社	1	500,000
* 株式会社日本テレビフットボールクラブ	1	500,000
* 富士通株式会社	1	500,000
* KUROBEアクアフェアリーズ	1	500,000
* 株式会社PFU	1	500,000
計	47	23,500,000

注 1. *印の 19 社員は、平成 18 年 9 月 22 日開催の第 1 回定時社員総会において 入社が承認されました。

注 2. 当期中に退社した社員の氏名、退社年月日は次のとおりです。

氏名	退社年月日
旭化成株式会社	平成18年9月22日
株式会社日立ディスプレイズ	平成18年9月22日

(3) 理事ならびに監事 (平成19年6月30日現在)

氏名	法人における地位
丸山 誠	代表理事
梅野 實	理事
中野 泰三郎	理事
山岸 紀郎	理事
不老 浩二	理事
間野 義之	理事
三好 徹	理事
吉田 司	監事
橋爪 静夫	監事

注1. 不老 浩二、間野 義之、三好 徹の3氏並びに橋爪 静夫氏は、平成18年9月22日開催の第1回定時社員総会において新たに理事並びに監事に選任され就任いたしました。

注2. 当期中に退任した理事並びに監事の氏名、退任年月日は次のとおりです。

氏名	法人における地位	退任年月日
橋爪 静夫	理事	平成18年9月22日
江原 寛	監事	平成18年9月22日

(4) 職員の状況 (平成19年6月30日現在)

男子	女子	計
5人	2人	7人

以上